

南原中だより

米沢市立南原中学校

学校通信

2018. 7. 1

南中プライド 62年の歴史に感謝をこめて



本校は昭和22年5月3日に南原村立南原中学校・南原村立関中学校として産声をあげました。そして昭和30年4月、市村合併により米沢市立南原中学校・米沢市立関中学校となり、さらに次の年の昭和31年7月1日に両校が統合して現在の米沢市立南原

中学校として創設されました。それから62年、今年三月の卒業式で最後の生徒に渡した卒業証書の番号が5496号でしたので、昨年度までに5496名の卒業生がこの南原中学校にその歴史を刻んできました。学校の歴史は人の歴史です。そこで過ごした人たちの心が学校の歴史となります。

歴史をひも解くとそこには必ず人の思いがあります。去年は、初代校長 西山先生の話引用しましたので、今年は昭和61年の創立30周年記念式で記念講演をしてくださった小口亘先生の言葉をご紹介します。

「(前略) 君たちにはどんな夢があるだろうか。目標は何だろうか。理想はどんなものを持っているだろうか。もし、夢も目標も理想もないとするなら、その人は若人ではないと思います。今の世の中には15歳の老人もいるし、70歳の青年もおります。自分はどちらであるか考えてもらいたい。『希望を天の星につなぐ』のだ。その日暮らしではだめだ、一日を一点としてとらえてはならない。一生のうちの一日であり、未来につなぐための、天の星につなぐための一日であることを忘れないでほしい。」

みなさんはこれから、いろいろな困難にぶつかりそれを乗り越えていかなければなりません。そんな時、小口先生の『一日を一生のうちの一日、未来につながる一日として、意味のある一日一日を過ごしてほしい』という思いを忘れずに、「南中プライド」を大切に、どんなことも乗り越えてほしいと思います。

最後になりますが、今年度の閉校と来年度の二中との統合に向けて、南原中学校の最後の歴史の一ページをしっかりと飾れるように、生徒・教職員一同が心を一つにして紡いでいくことを誓い式辞といたします。



創立62周年記念式 校長式辞より